

AIにできる作業・人間が必要な作業を、 4つの箱に分けてみよう。

ある活動・仕事の作業を「動詞」で書き出し、4象限マトリクス（AI 得意度 × ルール明確度）で分析するワークシート。ビジネス分析の入り口を、子ども向けに体験できます。

👤 小学高学年～中学生

🕒 40～50分

📊 タスク分析

🖨️ 印刷OK

— このワークシートでわかること

📊 「作業」を細かく分けると、AI と人間の境界が見える

No.01 では「仕事」全体を見ましたが、このワークシートではもっと細かく「作業（タスク）」レベルで分けます。1つの活動の中にも、AI が得意な部分・人間が必要な部分・あいまいな部分があることが、4象限マトリクスでハッキリ見えてきます。

STEP 1-2

観察する活動を選び、動詞で作業を書き出す

STEP 3-4

4象限マトリクスに配置 → パターン分析

STEP 5-6

発表・ふりかえり・シェア

1

観察する「活動」を1つ選ぼう

💡 仕事だけでなくOK。「お料理」「掃除」「学校の宿題」「お店のレジ」「サッカーの試合」など、よく観察できるものがいい。

📝 観察する活動

例：カレーを作る／コンビニのレジ／病院の受付…

💡 例

このワークシートでは「**コンビニのレジの仕事**」を例に進めてみます。

💡 ポイントは「動詞」で書くこと。「レジ係」ではなく「商品をスキャンする」「お金を受け取る」のように、行動 1 つずつに分ける。

1 例：商品をスキャンする

2 例：お金を受け取る

3 例：袋詰めする

4 例：お客さんに挨拶する

5 例：おでんを温める

6 例：道を聞かれて教える

7 例：クレームに対応する

8 例：商品を棚に並べる

9

10

3

4つの分類ルールを覚えよう

💡 STEP 2 で書いた作業を、下の4つのどれかに当てはめていく。タテ軸 = 人と関わるか、ヨコ軸 = ルールがハッキリしているか。

● AI が早く置き換える

ルールが明確 × 人と関わらない作業
(例：商品スキャン、在庫管理)。AI・自動化が真っ先に入る領域。

● AI が苦手だけど狙われる

ルールが曖昧 × 人と関わらない作業
(例：商品の陳列レイアウト、企画立案)。AI 化はじわじわ進む。

● AI が補助しやすい

ルールが明確 × 人と関わる作業 (例：定型挨拶、決まった案内)。AI と人間が共存する領域。

● 人間にしかできない

ルールが曖昧 × 人と関わる作業 (例：クレーム対応、相談・寄り添い)。人間の価値が残り続ける領域。

4

マトリクスに作業を配置しよう

💡 STEP 2 で書いた作業の「番号」または「動詞」を、4つの箱のどれかに書き込もう。「迷う作業」は線の上に書いてもOK。

おまかせ作業 ↑ / ↓ ひとまかせ作業

← ルールが明確

ルールが曖昧 →

● AI が早く置き換える

例：1. 商品をスキャンする
5. おでんを温める
8. 商品を棚に並べる

● AI 化はじわじわ進む

例：陳列レイアウトの工夫
新商品の企画

● AI が補助しやすい

例：2. お金を受け取る
4. 定型の挨拶
3. 袋詰めする

● 人間にしかできない

例：6. 道を聞かれて教える
7. クレームに対応する
急に泣き出した子をなだめる

← ルールが明確 / ルールが曖昧 →

5

マトリクスから読みとろう

💡 配置した作業を眺めて、自分の言葉でパターンをまとめよう。

😓 一番多かった箱はどれ？

例：🔴 AI が早く置き換える、が一番多かった

😓 この活動は、AI が入るとどう変わりそう？

例：レジ作業や陳列はかなり AI 化される。でも、お客さんとの会話や、困っている人を見つけて声をかけることは、これからも人間の店員さんが必要。
つまり、この仕事は『人と関わる部分』を磨いた人が残る…

😓 自分がこの活動をする立場なら、どこを磨く？

例：私だったら、🟢 のクレーム対応や、困っているお客さんに気づける観察力を磨きたい…

6

クラスや家族に発表してみよう

💡 下のテンプレートを使って、自由研究の発表・寺子屋でのシェアにそのまま使えます。

私は、観察した活動 の作業を分析しました。

作業を 数字 個書き出して、4 つの箱に分けました。

一番多かったのは 🔴/🟡/🟢/🟠 の箱で、数字 個ありました。

この活動は、これから AI が入ると どう変わるか になりそうです。

私がこの仕事をするなら、磨きたい部分 を磨きたいです。

 No.01（仕事全体を見る）と No.04（作業に分けて見る）、どう違った？

 「作業に分ける」考え方は、他にどんな場面で使えそう？



家族の仕事を、家族と一緒にマトリクスで分析してみよう。発見があるはず。



友達と違う活動で分析して、4つの箱の配置パターンを比べよう。



自由研究の発表で「マトリクス」をそのまま見せると、内容が一気にプロっぽくなる。